

## 第4期多摩区区民会議 第6回自然災害部会 摘録

□開催日時	平成25年7月29日(月) 午後6時00分～8時00分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	荒井部会長、細埜副部会長、安陪委員、石橋委員、岩崎委員、清宮委員、藤原委員、吉田委員(以上、自然災害部会)
危機管理担当	森田課長補佐
事務局	門間課長、井川係長、奈良職員
コンサルタント	福田研究員、斉藤研究員
傍聴者	1名

### 1 審議テーマに関する取組内容について～具体的な取組、実施主体の検討～

#### (1) 第5回自然災害部会の確認

- ・コンサルタントが配布資料に基づき、第5回自然災害部会の検討内容について報告し、内容を確認した。
- ・事務局が7月1日に開催された3大学連携協議会で大学生向けアンケート調査の実施について説明をした結果、アンケート調査の実施は難しいことを報告した。大学生の災害時協力の意向把握の方法については、アンケートチームが検討することを確認した。
- ・危機管理担当職員が平成24年度のHUG体験実施状況と平成25年度の実施予定について説明をした。HUGは現在避難所運営会議の大人を対象に実施されているが、中学生・高校生・大学生の防災意識を高めるためにも、今後は学生を対象としたHUG体験が必要であることを確認するとともに、自然災害部会として提言に盛り込むことを確認した。

#### (2) チーム別検討

アンケートチーム、パンフレットチームの2チームに分かれて、それぞれの具体的な内容について検討した。また、その結果を全体で報告、確認し、意見交換を行った。

#### 【パンフレットチーム】: 安陪委員、清宮委員、藤原委員、細埜委員、吉田委員

主な意見は以下の通り。

藤原委員 避難所の位置等を記した「多摩区防災」マップがある。避難所別に区画を色分けするなどすると分かりやすいものになる。

事務局 「防災マップ」は定期的に見直しをしている。マップについては次回の部会で作業をする予定である。マップとは別に、「備える。かわさき」多摩区版としてどのようなものが必要かを検討していただくと良い。必要な情報の周知や確認の観点からどのようなものが必要かを検討できると良い。

藤原委員 多摩区全体の地図では分からない。避難所ごとに作り、配布できると良い。地域の人が具体的に分かるものを配布できると良い。それを掲示板に貼るなどすると分かる。

安陪委員: 対象は各家庭だ。昼間家にいるのは子どもと母親だ。地震が起きたときに、父親とどうすれば連絡が取れるか、各家庭の緊急連絡先などを記入して、いつも目に見える場所に貼っておけると良い。

吉田委員 「あなたの避難場所はここです」「いざという時は、これだけは持って避難してください」といったものがわかると良い。突発的に来るので、文章ではなく、項目のみが記載されているとわかりやすい。

藤原委員 配布は各町内会・自治会にお願いして、各戸に配ることになる。

### ① 回覧板方式

吉田委員 回覧板は地域のお店の広告等が載るので、防災情報等を掲載する余裕がないのではないか。私の町会は5つの避難所がある。回覧板で避難所を知らせるのであれば、かなり細かく分けないといけない。

藤原委員 広告を取ってただで作成している。作成費が区から助成できるなら、防災情報の掲載も可能だ。

吉田委員 業者がそろそろ新しい物を作りませんかとハンコをもらいに来る。そのハンコを持って、商店に広告を出しませんかと回る。

安陪委員 そうすれば、表紙の裏など目立つところに掲載できる。

事務局 現在企業が広告を取り、無償でできているものに税金を投入することがどうなのかという問題はある。無償のものにうまく乗っかって情報提供ができる仕掛けはないか。

コンサル 回覧板については、ファイルがどう作られているのかなどもう少し確認しないと見えない部分があるので、とりあえず本日の検討からは外してはどうか。

事務局 避難所の地図を載せるにも、かなり細かく分かれていて難しそう。統一の情報を載せていくこともあり得る。

清宮委員 パウチしたものを最後のページに挟み込んでもよい。そうすれば、いろいろな種類のもを挟むことが可能だ。目立つようにすれば見てもらえる。

事務局 実態として現在どのような回覧板が回っているのか、どこの業者が入っているのかが分かっていない。それを知らないと、業者を差し置いて上からシールを貼ったり、行政が作るのは難しい。業者が分かれば、裏側を使わないなら防災情報を入れてくれなどと交渉もできる。

藤原委員 回覧板方式については、今後の検討事項とすれば良い。

コンサル 回覧板については、今後の検討事項と位置づけよう。ただし、有効な情報提供の手段なので、自然災害部会として何らかの提言をできると良いだろう。

### ② 掲示板方式

藤原委員 町内会の掲示板には避難所の場所が記載されていない。右下あたりに常時、「この地域の避難場所は〇〇です」というものを掲示しておけると良い。A4版位で大きく掲示する。

清宮委員 町内会の掲示板以外に、広報掲示板もあるので、さまざまところで目にする事ができる。

藤原委員 パウチをすれば、雨が降っても大丈夫だ。雨に濡れても大丈夫な印刷もある。

事務局 どのスペースに何枚貼れるかで経費が違ってくる。

吉田委員 町連にお願いすれば、数はすぐに分かる。

藤原委員 町内会掲示板であれば、掲示に関しては町連にお願いし、了解を得れば良い。

### ③ マグネット方式

藤原委員 東京ガスのガス漏れの連絡先などが書かれたマグネットがある。ああいったものが貼ってあると、すぐに分かってよい。

事務局 冷蔵庫やドアの後ろに貼るのであれば、あまり大きいと邪魔になる。12cm×8cm程度が良いのではないか。

吉田委員 小さくても冷蔵庫は毎日見るので効果がある。

コンサル これまでの話では、「あなたの避難所は〇〇です」「緊急連絡先は〇〇です」「いざという時には〇〇を持って避難しましょう」の3つくらいを記載するのが良いか。

安倍委員 貼り付ける場所は決まっている。見るのは家族で、毎日見るのだから、記載する内容を絞り込めば、大きい必要はない。

事務局 いざという時はあわてて、大切なものをどこに仕舞ったかということになる。しかし、貴重品のあり場を掲示するわけにはいかない。

コンサル 一時持ち出し品などは、すでにさまざまなパンフレットや冊子で紹介されているので、記載しなくても良いか。

藤原委員 非常持ち出し品はデパートなどでまとめて売っているのだから分かっていていい。

細埜副部長 3.11の際に非常持ち出し品を用意してあったが、いざ災害が発生して持ち出した物は、とんでもない物だったと言っていた。

事務局 そうなると、非常用持ち出し袋など「持ち出し3点セット」が書かれていると良い。フォーラムで意見を聞く叩き台として、いくつかの案があっても良いだろう。

安倍委員 各家庭に配られることの効果は大きい。

藤原委員 町会に入っていない世帯には回覧板が回らないので、その人たちをどうするかという問題もある。マグネット式であれば、各世帯に配布できる。

事務局 各世帯に配布するのであれば、業者に頼んでポストイングも可能だ。

細埜副部長 避難所を各自で記載するのであれば、「持ち出し3点セット」についても、各家庭で記載してもらってはどうか。緊急連絡先もすべて各家庭で検討してもらい、自分で記載すれば良い。

コンサル 連絡方法も一般的な171などではなく、昼は職場、夜は実家などと記載するのは良い。

吉田委員 そうすることで、自主性が生まれる。

細埜部長 名称も「多摩区版」ではなく、「あなたにとっての防災情報」となる。

#### ④ その他の話題

吉田委員 多摩区は山坂が多いので、今回のような集中豪雨の際にがけ崩れなどが起きる危険がある。その際、小中学校等の避難所ではなく、一時避難所を町会単位でどういうところに設けてあるのか。地域でどう確保するのか。

危機管理担当 大規模ながけ崩れの場合などは、避難勧告が出るので学校に避難することになる。

安倍委員 地震の際に、地域の地理的な特徴を熟知していないので、避難に当たって誤った方向に行って、災害に合った人が問題になっていた。地理的な状況も把握していないといけない。

コンサル 次回、地図づくりの作業をする際に、そういった情報もわかる範囲で記載しよう。

#### 【アンケートチーム】荒井部長、石橋委員、岩崎委員

主な意見は以下の通り。

事務局 3 大学学生へのアンケートについては資料にあるようにすぐ実施することは難しく、再度3 大学連携事務局にアンケート内容について話合うことが必要となった。

岩崎委員 大学でアンケートをやる場合は、設問内容の是非やそれを行うことが学生や大学側にとって望ましいものであることがきちんと確認できないと実施できない。第三者に住所を提供できず、アンケートのハードルは高い。内容を示し、これなら問題がないとわ

かれは、スムーズに行くかもしれないとの印象をもった。

石橋委員 アンケートは郵送するものではなく、大学内のどこかに一定期間、多摩区在住の学生が対象だと書いた設問票をぶら下げ、答えを回収箱の中に入れてもらう気楽なものを考えた。もしアンケートができずに、なおかつ、自治会・町内会の皆さんから災害時に学生さんに参加してほしいという回答があったならば、3大学の事務方の皆さんと話すことはワンクッションあってまどろっこしい。そこに学生さんが入ってくれて多摩区に生活する学生の実感が聞けるとよい。

荒井部会長 住所を第三者に渡すことができないこと、明治大学ではポータルサイトでアンケートをやっているのであれば、アンケートの実施と回収を工夫すればできるのか。

事務局 3大学の会議の経緯を聞いた印象では、3大学それぞれ意見は異なるが、住所を開示することは難しく、頼まれたら学生になんでも発信するわけにはいかず、大学構内でやる場合でも、アンケートを実施することに対する大学側の納得が必要ということだ。

石橋委員 それは自治会・町内会でも同じだ。

事務局 そのためにはまどろっこしいかもしれないが、区と大学との窓口である3大学連携事務局会議の皆さんの納得を、まず得ることをしなければならないと考えている。

石橋委員 それであればすぐやってもらわないといけない。去年から検討している話だから。

事務局 ではそのような了解のうえで、自治会・町内会のアンケートについて議論をしよう。

今回は自然災害部会とコミュニティ部会のアンケートを一緒に行うので、アンケートの宛先は町内会会長さん宛で、誰に書かせるかは会長さんにおまかせでよいかと思う。

石橋委員 多くの場合は会長が自主防災組織代表を兼務しているのでそれでよいだろう。

荒井部会長 それなら自主防災組織代表宛にしてはどうか。

石橋委員 コミュニティ部会のアンケートも一緒に行うから、宛名は会長にし、会長の判断でその自治会・町内会で適した人が答えるようにしてもらうのでよいのではないか。

事務局 今回は例えばA4のアンケート用紙で自然災害が聞きたいものとコミュニティ部会が聞きたいものがあり、それを誰宛にするかということだ。

荒井部会長 自然災害部会のアンケートについては自主防災組織の代表に答えてもらうようにしたい。

事務局 会長宛とし、質問の内容によって、それにふさわしい人を書いてもらうようにする。

次に形態はコミュニティ部会もA4判1枚程度と考えており、それでよいか。

全委員 よいと思う。

事務局 配布方法は郵便でよいか。

全委員 よい。

事務局 次に設問の候補だが、一時避難場所と学生との連携・協力の二つが考えられている。

これ以外に必要な項目があれば、検討してほしい。

石橋委員 一時避難場所については、一時避難場所とはなにかということが最初に説明されていないといけない。質問①で一時避難場所では何かするかを聞いているが、一時避難場所はそこで何かをする場所ではない、集合するだけの場所。避難所と避難場所は異なることを最初に明示しないといけない。

荒井部会長 一時避難場所がある程度広く、そこに留まっても安全と思われるものであれば、危機管理担当は、そこに留まってもよいと考えられていると説明した。

事務局 自治会・町内会によっては、一時避難場所に集まってくる人はどんな人かはすでにかかっているの、集まった後は安全確認をし、誰が来ていて誰が来ていないかをそこで確認するといっていた。

石橋委員 安否確認しているか、してないかを聞けばよい。

荒井部会長 一時避難場所すら確認されていないところがあるから、安全や点呼について確認することが決まっているのはよいことだ。質問を追加できるのならば、防災訓練と講演会の実施の有無を聞きたい。小さな自治会・町内会単位で講演会までやっているのか。またやっていないところでも、講演会の要望の有無も聞きたい。

岩崎委員 首都圏直下型地震はいつ来てもおかしくない状況であり、政府からの要請もあり、3.11の実体験も踏まえて、危険を煽る意味ではなく、今まで以上に学生とともに防災への取組をしなければいけない意識が大学にはある。明治大学では多摩キャンパスは理系で高圧ガスなど危険物もあり今年9月17日(火)に防災訓練を行い、10月24日(木)に防災講演会を自主的にやるようにしている。学生が教室から避難する訓練は昨年を実施し、おおよそ30分以内に避難できることは体験した。

荒井部会長 防災講演会には意識の高い学生がきていると思われるが、アンケートをできないか。行事に組込んだアンケートは可能か。その場で配布してその場で回収できる。

事務局 回収の簡単さというよりも構内でアンケートを実施するには大学側の理解を得ないと勝手にはできない。

石橋委員 先に進めると、②指定していない際の選択肢の並べる順序は、

- ① 避難所が近いので一時避難場所を指定する必要性がない。
- ② 一時避難場所を指定したいが、適当な場所が自治会・町内会にはない。
- ③ 自治会・町内会では一時避難場所の必要性を認めているが指定に手が回らない。
- ④ 一時避難場所の指定についてこれまで自治会・町内会で検討したことがない。
- ⑤ その他 ( )

とするほうが論理的だ。

コンサル ここでこれまでの議論を確認すると、アンケートの宛先は自治会・町内会の会長宛で、自然災害、コミュニティの内容の回答にふさわしい人に回答してもらおう。設問は郵送する。一時避難場所については有る無しを聞き、あると答えたところにはその周知方法を聞く。この選択肢は？

石橋委員 回覧、チラシ、その他くらいか。

コンサル 次に一時避難場所であることを聞く。

荒井部会長 一時避難場所の説明を冒頭にすることにしたので、そこで何をするかははずしてよいだろう。

全委員 それでよい。

コンサル 次に一時避難場所を指定していないと回答した自治会・町内会への選択肢は以前に確認した通り。今後の予定の有無については、①予定がある、②ない、③その他にする。新しく追加することになった防災訓練と防災講演会については、どうするか。

石橋委員 3.11以降の防災についての意識を探る非常に基本的なことなので、最初に聞くことになるだろう。

コンサル 自然災害部会の最初の質問は、防災訓練をしているかどうか。選択肢は①している ②していない ③その他。次に防災講演会を自治会町内会単位でしているか。選択肢は①している ②していない ③その他ですね。

全委員 それでよい。

事務局 次に学生との連携・協力に関する設問を議論する。

コンサル 多摩区には3大学があるので多摩区在住の学生との連携・協力についてどう考えるかを設問とする。その選択肢として現在、①ボランティア登録など日常的な連携が必要、

②地域住民として日ごろから避難訓練への参加が必要、③いざというときに協力してほしい④学生さんとの連携・協力の必要性を感じていない、が挙げられているがこれでもいいか。

石橋委員 ①ボランティア登録は、災害救援ボランティアセンターが立ちあがたときに、ボランティアの受け入れ作業をする時に登録するのであって、事前登録ではない。また自治会・町内会に直接登録するのでもないので、はずすべきだ。②の避難訓練は防災訓練のことで、自治会・町内会がやる日ごろの防災訓練の時に参加してほしいかどうかと聞くことになる。

コンサル ③のいざというときに…というのは、どういう意味か。

事務局 ②が日ごろから協力で、③は災害が起こった時には協力してほしいという意味だ。

岩崎委員 学生に対しては連携・協力してほしいというよりも要請するとか、お願いするということか。

荒井部会長 防災訓練などに参加してもらいたいといった感じだ。

コンサル 表現とすれば、①日ごろの防災訓練の時から参加してもらえるとよい、②災害が起こった時に協力してもらえれば十分である、というニュアンスだろうか。三つ目の選択肢の連携の必要性はないは、入れるべきか。

石橋委員 学生さんが住んでいない地域とか、協力の必要を感じていないところもある。多摩区は広いから地理的な要因で学生さんへの考え方はそれぞれあるはず。

コンサル 自分たちの自治会・町内会では学生さんたちとの連携の必要性を感じていない、という内容か。

全委員 それでよい。

コンサル 最後の質問は協力してもらいたいときの具体的内容だが。

石橋委員 救援の中で火災や救急のときに、警察や消防隊などのプロが来たら、素人は後ろに下がって人が手を出してはいけない部分もある。その見極めをしないといけない。その場合、一番目の要支援者の避難支援、三番目の消火や救援活動、五番目の備蓄物資・救援物資の管理・搬送・配布は、省くべきだろう。

コンサル そうすると避難所の運営が始まった時に学生さんに期待することは何かという点になるのか。

石橋委員 そういう場面が想定される。その時の選択肢はたくさんあるし、どんな選択肢を選ぶかは非常に難しい。これは最後の質問だから、学生さんにはどんな協力を望みますかと聞いて、自由記述にしてはどうか。

全委員 それでよい。

石橋委員 8月の部会と9月の全体会の間で、自治会・町内会の役員の集りがどこで行われるか聞いて、区民会議委員長がアンケート実施についてきちんと了解が取れるようにしておかなければいけない。

事務局 その日程の取り方は大事だと考えている。

## 【全体での意見交換】

各チームの検討結果をコンサルが報告し、意見交換をした。

荒木部会長 マグネットや掲示板を、身近なレベルでの防災マップとどうリンクさせるのか？

コンサル 回覧板の方にマップの結果を掲載する等はあるが、マグネットは面積的に掲載できる情報が限られる。マップづくりに関しては、次回大きな地図を用意し、作業できると良い。

事務局 アンケートについては、次回設問の形にしたものを提示するので、選択肢の項目や回答のしやすさについて意見をもらえると良い。

石橋委員 パンフレットについては「備える。かわさき」の多摩区版を作り、その中から必要最小限の情報をマグネット等にしたり、回覧板で提供する情報を仕訳する流れを想定していた。

事務局 紙のパンフレット等はちらっと目を通しただけでどこかにやられてしまうし、既にさまざまな広報物が作成されているので、そういったものではなく、身近なところに常に掲示してもらえるものにシフトした。これからマップの作業をするときに、それに多摩区なりの工夫をしたり、裏面に多摩区ならの情報を掲載することはある。

コンサル 「防災マップ」は毎年印刷しているということなので、裏面に情報を載せたり、マップの右上に、「あなたの避難所は〇〇です」と書き込むスペースを作っても良い。マップにも、多摩区ならではの必要な情報があるかも知れない。

岩崎委員 アンケートチームで、学生との連携のあり方について3大学連携協議会の皆さんと意見交換をしてはどうかという意見が出たが具体的にはどのようにしたら良いか？

事務局 アンケートを実施してから意見を聞こうという話になっていたが、もう少し早く意見を聞いても良いのではないかということだった。次回の3大学連携協議会は8月5日(月)だ。それが過ぎると夏休みになり、9月下旬になる。

事務局 3大学連携協議会は議題が詰まっているので、別の日程を組んだ方が良い。何についてどういう意見を聞くのかを事前に決めないと、大学の方に話を聞いても議論が混乱してしまう。このことだけは確認しようといったことを決めておかないといけないのではないか。アンケートチームで事前に集まって、論点を検討しても良い。8月5日にいつごろなら可能なのかを聞けると良い。

岩崎委員 区民会議の委員の立場として、8月5日までに、自然災害部会でのこれまでの議論の経緯や大学との連携の趣旨について、専修大学と日本大学の委員に説明することは可能だ。意見交換の前に情報提供をしておいた方がスムーズに行くだろう。

石橋委員 災害が発生したときに、地元にいる大学生たちに助けてほしいという単純な発想だった。それに対して学生がどんな意識を持っているのかを知りたいということがアンケートにつながったのであり、堅苦しいアンケートは考えていない。大学は学生を預かっている立場だが、住民としてどう関わってもらえるかを意見交換できると良い。

事務局 事前に岩崎委員から説明をいただいた上で、その結果等を次回の部会で報告を受け、聞きたい論点を整理しよう。その上で日程を調整し、話を聞くことにする。

## 2 その他

### 〔スケジュール〕

□第7回自然災害部会 平成25年8月22日(木) 午後6時～

以上